

# ひろしまの 土地改良



2015年 第243号



ふるさとの田んぼと水子ども絵画展2014 水土里ネット福山理事長賞  
「冬に向けてのくわいの手入れ」 掛谷 海翔

## 第38回 全国土地改良大会青森大会 開催

第38回全国土地改良大会青森大会が平成27年10月15日(木)13時00分から、青森市「新青森県総合運動公園マエダアリーナ」で開催されました。大会テーマ「土地改良の路繋ぎ 明日への確かな途拓く」の下、全国から約3,500名の農業農村整備事業関係者が参集し、「農業・農村の重要性」と、それを支える「農業農村整備事業の役割」を広くアピールし、「強い農業」と「美しく活力ある農村」づくりを支えている土地改良事業を力強く牽引し、魅力ある農業農村づくりを目指すとの大会宣言を採択しました。

大会式典中に行われた平成27年度土地改良事業功績者表彰では、全国土地改良事業団体連合会長表彰に山県郡大朝土地改良区の野村常雄理事長が受賞されました。



土地改良事業功労者表彰  
野村常雄理事長

# 7組織の合併で広域化 集落間で協力して地域を守る ～高屋広域協定運営委員会～

東広島市の中央部高屋町に位置する高屋広域協定運営委員会は、平成19年から6組織（いなき、小竹、貞重、重兼、造賀東、近信谷）がそれぞれ活動を行ってききましたが、平成24年度に新たに1組織（大谷）を加えて7組織が委員会を設けて活動を行い現在に至っています。

高屋町は、住宅団地や工業団地が造成され人口が増える一方、農業従事者の高齢化や、米価の下落などから離農に拍車がかかり、7組織にそれぞれ設立されている農事組合法人が中心となり営農活動をしています。

高屋広域協定運営委員会では、協定している施設の維持管理は、各組織が従来通りの方法で管理し、年間の活動は5月に開催する委員会で決定しています。営農においては法人が相互に協力しあい、農機具、水稻育苗、大豆や飼料米の刈り取り等に取り組んでいます。また、年に3回、全ての組織が集まり事務処理や活動内容の整理などの方法を確認する機会には情報交換を兼ねた場になり、組織間の繋がりが強固となっています。



## 高屋広域協定運営委員会の概要

- 設立年月日：平成24年3月15日
- 所在地：東広島市高屋町
- 農地面積：田 274ha、畑 5ha
- 農業用施設：水路、ため池、農道
- 取組：農地維持支払、資源向上支払  
(施設の長寿命化のための活動を含む)

### ●地域資源を徹底的に守り抜く（いなき）

いなき地区は、ほ場整備終了後約20年が経過し農業用施設の老朽化による破損・法面形状の劣化が見受けられます。この様な状況において農業従事者や（農）いなきを中心に地域団体やJA等が連携して事業に取り組んでいます。また農用地を囲む、5kmの猪防護柵を設置するとともに、維持管理の軽減のためバッファゾーンを設けています。猪の対策は非常に大きな効果があり、現在は防護柵の点検・補強に力を入れています。



水路の泥上げ



農道の補修

向けて取り組んでいます。

農地面積の約7割（30ha）が集積済みで、水稻のほか酒米や白ネギの栽培に力を注いでいます。月に1度、青年部との話し合いの中で草刈りや側溝の泥上げ、ため池の補修や猪の防護柵など農地の管理や、景観形成のための菖蒲の植栽に取り組み、「次世代がいつでも農業のできる場所」を目標に活動しています。

また、農業生産に於いても、後継者たちの意欲に、ベテラン農家が手を添える形で実現した「レタスの定植」が、地域に新しい風を吹き込んでいます。



菖蒲の植栽



ため池の補修

### ●地域みんなの力で持続的な農業と豊かな地域づくりを目指して（大谷）

平成24年度に新たに加入した大谷地区を支える（農）夢ファーム大谷は同年10月に設立され、後継者育成のため「青年部」や「女性会」を同時に立ち上げ、十数年後を視野に入れた地域づくりに

### ●自然環境を生かした「活力ある地域づくり」へ（小竹）

兼業農家の多い小竹地区は、農家の担い手対策として平成14年に設立された（農）アイ・おだけが農業生産の礎となり、後継者の育成に務めなが

ら取り組みや体制づくりを行っています。女性会が中心となり花壇の管理を毎月交代で続けているほか、遊休農地や農道法面にヒマワリやコスモスなどの植栽を行っています。また、施設の共同管理や計画的な補修・整備への取り組みに於いては、周辺から自然環境の美しさをほめられるようになり、今後は農地を有効的に活用し、活気ある地域づくりを目指します。



水路蓋の補修



花壇づくりや手入れ

### ●「住みよい貞重」を目指して（貞重）

貞重地区は、(農)さだしげを中心に住みよい地域づくりに取り組んでいます。「住民みんなで守る」を活動のスローガンとして、子ども達との田植え体験やもちつき大会、さだしげ女性会による豆腐作りの見学など地元住民との交流を通して地域の絆を強めています。農業用施設の共同管理や清掃活動、水路管理はもとより農道補修、シバザクラの植栽など農地の保全・環境の改善に務め、若者が定住する貞重の将来像を描いています。



シバザクラの植栽



もちつき大会

### ●非農家を取り込んだ環境美化活動で「癒しのスポット村づくり」を推進（重兼）

重兼地区の農地8割を作付する(農)重兼農場を中心に、土地改良区、自治組織で構成されています。共同作業は自治組織で活動するほか、草刈りや補修等維持管理事業では農家を中心となって行っています。また、法面への防草シートの敷設や農道法面へのシバザクラ、路側帯への花の植栽活動等を行うとともに、非農家を対象とした環境美化活動や体験農園での農作物の収穫などにおい

て、農村の持つ「癒し・防災・CO<sub>2</sub>削減」など多面的機能の認識を感じてもらいながら「癒しのスポットむらづくり」を推進しています。



路肩・法面草の草刈り



花の植栽活動

### ●「相互扶助の精神」で農業・環境を守る！（造賀東）

造賀地区は平成15年に(農)ファーム・イースト造賀の設立を機に、地区全体で農業環境の整備、活性化を図るため、本組織を設立しています。草刈りや清掃活動、側溝の泥上げ清掃、水路補修など施設の維持管理のほか地域内7か所に花壇の整備やシバザクラの植栽を行っています。また、地域内の一斉ゴミ清掃は「ふるさとをきれいに」という合言葉に地域の連帯感を強めるとともに、絆づくりの一環としても役立っています。



水路の補修



地域内の一斉清掃

### ●地域環境を守り続けて後継者育成へ（近信谷）

近信谷地区は、小規模な集落の特長を活かし、強い結束力で、地域環境を守り続けています。水路や農道の草刈りのほか、水田法面の草刈り作業の軽減を目的に景観形成となるシバザクラの植栽、補植など、景観維持に取り組んでいます。伐採した竹を活用した地域交流を通じて連携を強め、今後は地域活動の中心となる後継者育成にも取り組んでいきたいと考えています。



側溝の泥上げ



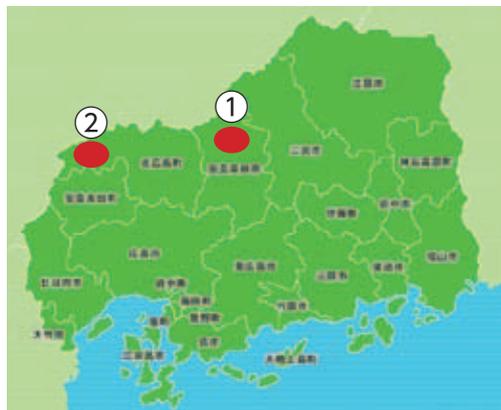
地域交流 竹伐採処理

# 「加工・業務用キャベツ生産」に向けた県内の動き

## 1 県内の動き（その1）

### 『広島県内初のイオン直営農場 来夏稼働』

- 都市近郊型農業や、より効率を高めた大規模農業のビジネスモデル確立を目指すイオンアグリ創造株式会社は、来年8月広島県内で初となるイオン直営農場「イオン広島安芸高田農場」を開場されます。
- それに先立ち、10月7日（水）イオンアグリ創造株式会社と安芸高田市により「農業参入に関する協定」が締結されました。
- イオン広島安芸高田農場では、約12haの農地を活用され、キャベツや白菜、ブロッコリーなどを生産され、イオン系列の店舗に供給されるとともに、20名程度（パートを含む）の雇用が創出されます。
- また、高宮町羽佐竹地区には、地域の農業法人等5経営体が、効率的な農業を目指し、参入されることとなっています。



協定書調印式

## 2 県内の動き（その2）

### 『キャベツ収穫機の実演会を開催』

- 加工業務用キャベツの大規模栽培を進めるためには、労務負担の大きい収穫作業の効率化が、たいへん重要です。
- このため、キャベツの機械化体系（定植・収穫）の実現におけ、栽培実証試験の一環として、北広島町西八幡原において、ヤンマーアグリイノベーション株式会社の協力を得て、6月30日（火）定植機の実演に続き、9月8日（火）収穫機の実演会を開催しました。
- 当日は、生産者15名、農業関係者31名が参加しました。
- 今後とも、キャベツの大規模栽培に意欲的に取組まれる経営体を支援して参ります。



6/30 乗用全自動定植機実演会



9/8 収穫機実演会

★キャベツの大規模栽培に興味のある方は、広島県農業経営発展課までご連絡下さい！

お問い合わせ先 広島県農林水産局農業経営発展課：☎082-513-3557



## 青年農業者インタビュー Young man farmer Interview

「青年農業者インタビュー」第2弾は、三次市大田幸町の上井田地区でブドウ栽培を中心に、水稲や菊の栽培に取り組みながら独自の農業スタイルの確立を目指されている、芝床直樹さんにお話を伺いました。

### 青年農業者たちの昨日・今日・明日 ～ 3代目農業者の出発は「地域に可愛がられてこそ」～

上井田ブドウ園 芝床直樹

ブドウ園のほ場  
(写真右)



ワイン用の  
ベリーA  
(写真左)

#### ぶどう園の概要

所在地	三次市大田幸町2766
構成員	2名
面積 (ha)	4.8ha
作物内訳 (ha)	ブドウ (2.9ha)、水稲 (1.7ha) 菊 (20a)
おもなぶどう品種	ベリーA、ピオーネ、 シャインマスカット、 安芸クイーン、シャルドネ、 メルロー 他6種

#### ——上井田ブドウ園の概要と就農へのきっかけをお聞かせください

上井田ブドウ園は昭和39年、祖父母の代に農家8戸が農事組合法人を設立し、父母の代を経て50年が経過しています。私の代で3代目となり、母と2人でおもな作業を担っていますが、従事して13年が経過しました。現在は農家4戸の任意組合として活動を行い、共同出荷や共同購入などの利点を活かしながら個々の農家が直売・決算を行う独立採算制をとっています。

就農のきっかけは、大学在学中に父が大病を患い、家業を継いでほしいと頼まれたことがきっかけですが、代々農家をやっていたので迷いなく飛び込めました。

#### ——技術面などに不安はありませんでしたか

父と一緒に農業をやれた期間は1年で、就農2年目でいきなり経営者になってしまい資金面も含めて考えることが大変でした。三次市の農業青年クラブの仲間たちを逐一質問攻めにしたり、あとは地域の人に助けられて。(笑)

誰もが包み隠さず指導してくれたことが、本当に助かっています。身近な同世代の農業者たちとの会話や、暖かく見守り続けてくれた地域の人達抜きにはこの仕事は成り立たない。と思っています。地域に可愛がられてこそ、と振り返ります。



祖父母からの受け継いだブドウ園を守る芝床直樹さん

#### ——経営者としても多くの経験を積まれて、取り組んでよかったことをお聞かせください

ブドウ栽培と水稲を今まで作っていましたが、私の代から菊(20a)の栽培も始めました。ブドウの収穫は8月中旬から9月一杯となるなか、品種によっても収穫時期のピークが異なり、年間の作業分散

が可能となっています。10月に稲刈り、冬期においては低コスト化に向けた取り組みの検討、施設の修繕などの管理作業に充てています。年間を通してみると、8月上旬が季節雇用の方が手隙の時期でもあったので作業のできる菊はどうかと考えました。やってみたら土地をうまく活用した菊の栽培は、利益率で勝負できる反面、手作業も多く、今後は作業の効率化へ向けた改善が課題だと思えます。

生食用ブドウは主に直販として取り組んでいますが、口コミから年々足を運ばれる方が増え、現在は300件以上の顧客を抱えるなか、取り入れたのが顧客管理ソフトです。DMの発送や情報提供、受注販売のタイミングを計れるなど、配送作業の省力化に大変役立っています。また、中学生の頃自然災害でブドウが落ちた経験から、自然災害のリスク軽減にもなると導入を決めました。毎年同じ時期に注文できるという安心感は、お客さんの定着につながり、お客さんが増えてもソフトがあることで個々のニーズへ敏速な対応が可能になっています。



袋を取り除き、シャインマスカット収穫



シャインマスカット、瀬戸ジャイアンツ（左）、ベリーA（右）いずれも生食用

### —顧客のニーズに対応するために工夫した点をお聞かせください

ブドウ(2.9ha)のうち7割をワイン用に出荷していますが、安定的な経営をしていくには、長期的な計画で生食の比率を少しでも増やしていきたいと考えています。顧客の好みも多様化し、その年ごとに人気のある品種の傾向も変わっていくなかで温暖化などの気象状況の変化に即応できるブラックビートの品種は一定の甘さに加え色づきの良さや、ポリフェノール含有率の高さが特徴で、贈答品や詰め合わせへの幅が広がります。また華やかな色合いや食べ比べも楽しめるよう、ベリーAやピオーネ、安芸クイーンなどを含めた10品種のブドウを栽培しています。「どのタイミングで何を植えるか。」を見通しながらお客さんの希望に沿えるようなブドウ作りで、喜んでいただけるのは直販ならではの強みであり、信頼関係も築いていける。と確信しています。

### —今後の課題や思いについて

現在は母と二人でブドウ園を営み、母にベリーAの管理を一任しています。ベリーAは市場出荷している品種で人気も高く、母以外の担い手さんにも管理を任せられるように指導していければ、と考えています。

### —インタビューを終えて

「今日もこのあとは祭りの太鼓の練習で。」とお祭りを筆頭に、地域行事の数々を楽しそうに話してくださいました。農業は「地域の人に可愛がられてこそ」と3代目農業家として地域に根付いた言葉が印象的で、「暖かい見守りとフォロー」があったからこそこの「今」なのだと感じました。お忙しいところ早く取材に応じいただきありがとうございました。

# 第14回 ひろしまの農村 フォトコンテスト 作品募集

応募締切  
平成28年  
1月29日(金)  
(当日消印有効)



昨年度最優秀賞 「防蛾灯」 大石 正臣



昨年度優秀賞 「丘のじゃがいも畑」 手島 洋子



昨年度特別賞 「共同作業」 木田 敏忠

※写真は昨年度受賞作品です。

## 募集テーマ 「水土里あふれる景色」「農業・農村のちから」

「農村」には四季を通してたくさんの魅力があります。広島県内の四季折々の風景、伝統文化、何気ない人々の生活、農業に挑戦する姿・新しい力——。レンズをとおした、あなたの「新しい発見」が伝わるとっておきの一枚をお待ちしています。

### 入賞作品には豪華副賞

- 最優秀賞 1点 【賞金】1万円 【副賞】1万円相当の県内特産品
- 優秀賞 2点 【賞金】5千円 【副賞】5千円相当の県内特産品
- 審査員特別賞 3点 県内特産品 広報委員会特別賞15点程度 県内農産品



(写真提供：世羅高原カメラ女子旅)

カメラから  
の  
応募大歓迎!!

プロ・アマ 問いません! スマホやデジカメで撮った写真やデータのみ応募もOK!!  
過去の受賞作品は

主催 ひろしま農業農村整備広報委員会 (広島県・広島県土地改良事業団体連合会)  
後援 中国新聞社、NHK 広島放送局、中国放送、テレビ新広島、広島テレビ、広島ホームテレビ、(株)日本農業新聞中国四国支所、JAグループ広島、(株)シグマ広島  
詳細・応募方法はウラ面をご覧ください



住みやすく豊かな村づくり  
みどり  
水土里ネットひろしま

季刊 ひろしまの土地改良 第243号  
■ 平成27年11月1日  
編集：ひろしま農業農村整備広報委員会  
発行：広島県土地改良事業団体連合会  
〒730-0017 広島市中区鉄砲町4-1 広島県土地改良会館  
■ TEL (082) 502-7470 ■ FAX (082) 502-7480  
■ http://www.hdn.or.jp  
■ 印刷：佐々木印刷株式会社